

# 日本書票協会通信

No.133

2005.10.1.発行  
(年4回発行)

発行所: 〒101-0047 東京都千代田区内神田1-5-11 セントラル大手町ビル301号 日本書票協会

The Nippon Exlibris Association: 301 Central Otemachi Bldg. 1-5-11/Uchikanda Chiyoda-ku Tokyo 101-0047 JAPAN

Tel+Fax[03]3291-5519/e-mail:exlibris@oregano.ocn.ne.jp ★情報はFaxまたはe-mailでもお受けしています。

URL:<http://pws.prserv.net/jpinet.Exlibris/jpinet.exlibrys/association.htm> (担当:末廣吉成)一枚の  
蔵書票

## 遠くに聞こえる祭囃子

● 佐藤安正 ● SATO, Yasumasa ●

秋祭りのお囃子が遠くで聞こえる。場所によって祭りを行う季節が異なるが、その意味を調べると、春祭りは農作業の開始にあたり豊穣を祈ること、夏祭りは夏越のために健康を祈願すること、秋祭りは神に収穫を感謝することである。夏祭りは、だから威勢がよいのだろう。関東ではその威勢の良さで、江戸三大祭が知られている。

「神輿深川、山車神田、だだっ広いのが山王様」と巷間に言われているようだ。ただ、場所によっては、三社祭を入れたり、根津権現祭を入れたりしているようである。それぞれの人の記憶の彼方には、子供の頃に見た、あるいは参加した祭りの風景が残っていると思われる。

私はといえば、子供の頃、小さな夏祭りで神輿を担いだが、子供神輿だけに、担ぐのは菰樽であった。子供神輿は小学生までだったが、6年生ともなると、大人神輿をかついでみたいと思うようになった。が、町内での8年に1回の持ち回り制であったため、大人神輿を担ぐ機会もなく時が過ぎ、今に至るも祭りは見るのみである。

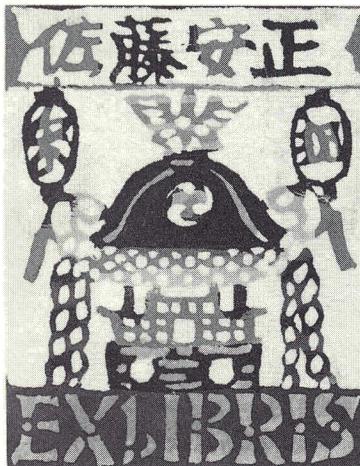
そういうこともあってか、以前に型染作家の小島恵次郎氏に蔵書票を依頼する機会があった際、テーマとして挙げたのが「神輿」であった。小島さんもこのような題材は初めてと言われていたが、

あまりない題材かもしれない。休憩の、会所に置いてある神輿といった雰囲気であるが、華やいだものがある。時間が経るにつれ愛着が湧いてきた書票もある。とは言っても「神輿」をテーマとした書票はこの1種のみ。

祭りといつて私が連想するのは、「船徳」という落語である。この漸は、祭りに材を採ったものではないが、中に出てくる「四万六千日、お暑い盛りでございます」という言い回しが、一瞬にして場面を変えてしまい、この漸は夏の漸ですよと聞いている人に思い起こさせる効果を持っている。ご案内の方も多いのではないかと思われるが、この漸は8代目桂文楽さんが十八番にしていた漸であった。では祭りに材を採った落語はというと、「佃祭」や「祇園祭」がある。「佃祭」は先代の三遊亭金馬さんが得意としていた演題で、佃島の住吉神社のこれも夏祭り

での漸。「祇園祭」は別名「祇園会」ともいい、江戸っ子が京都見物に行ったものの、文化の違いもありひと悶着を起こすという漸である。

最後は落語の解説になってしまったが、この「神輿」の書票は協会の全国大会等でも交換希望者が多かったようで、自分で本に貼ることもできないうちに、気がつけば現在は手元に1枚残っているのみとなってしまった。



小島恵次郎・作／型染 (S3) 76×59mm

# Sergey HRAPOV

セルゲイ・フラポフ Sergey HRAPOV



国籍——ウクライナ 1956年2月8日生まれ

住所——P.O.Box 10529 UA-79049-Lviv, Ukraine／電話・FAX——38 032-245-67-90

メールアドレス——s-hrapov@mail.lviv.ua fineart\_sh@lviv.farlep.net

出身地——Lviv出身／学歴——ウクライナ印刷学院版画専攻卒業

技法——銅版(エッチング・アクアチント・メゾティントの併用)

蔵書票作成にあたっての姿勢——人生を表現する事／書票制作点数——102点

\*受賞歴(書票)――

2000年 第18回マルボルク国際蔵書票展入賞(ポーランド)

2002年 第3回HAVIROW国際蔵書票展特別賞(チェコ)

2003年 第1回ソフィア国際蔵書票トリエンナーレスponsor賞(ブルガリア)

2003年 第1回アンカラ国際蔵書票展特別賞(トルコ)

◆私たち日本人の目から見るとマンガチックに見えますが、ウクライナのセルゲイ・フラポ夫さんは、ご覧の通り、大変ユニークな人物キャラクターを創造しています。 (青木康彦記)

\*製作技法はすべて銅版(C3+C5+C7)



157×122mm



95×67mm



143×98mm

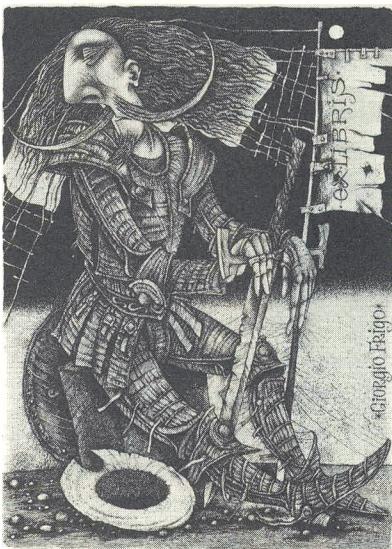
151×109mm

136×108mm



120×83mm

146×105mm



153×105mm



144×100mm

### 心のうちを描く——セルゲイ・フラポフ

私は自分の手足を見ることは出来るが、私自身の顔を見ることは出来ない。鏡を手にすれば、そこに疲れた男の顔が見える。しかし、鏡に映っているのは上っ面だけだ。私は1枚の紙と1本の鉛筆を手に取ると、私の心のうちを紙の上に映す作業を始める。私の顔、それは私の心の鏡なのだ。